

## 「重荷を下ろす」

～あなたは一人で抱えていませんか？～

詩編4：1－8

日本の歴史の中に、豊臣家（秀吉の側室・淀殿と子・秀頼）と徳川家（家康）とが戦った大坂冬の陣があります。これは大坂城に豊臣家10万の軍勢、対して城を包囲した徳川家20万の軍勢との戦いでした。大坂城には豊臣秀吉が築き上げた立派な建物と10年分の食糧がありました。また、城の周りにはお堀があり、どこから攻められても大丈夫な状態で、普通に考えれば敵に周りを囲まれていたとはいえ、負ける戦ではありませんでした。それに対して家康は300発の大砲を使って昼夜攻撃を仕掛けました。とはいえお堀から本丸まで700メートルもあったため実際に当たった弾はたったの1発で、それも大した損害ではありませんでした。しかし、その当時大砲は珍しく昼夜鳴り響く爆音と地響きにより、豊臣家は不安と恐怖に駆られ降伏してしまいます。目の前の悲惨な状況により感情が左右され、結果全てを取られてしまったのです。あなたにも目の前の状況によって揺れ動く感情がありませんか。

ショパンのピアノの曲に、24の前奏曲作品28第15番「雨だれ」という曲があります。この曲は長調と短調が混じり合った構成になっています。彼の作品には自身の思いが詰まっております。この曲中に鳴っているラ♭は彼の人生の時を刻んでいるといわれており、彼はこの曲で人生の穏やかなときと苦しみのあるときを表現したのです。この曲の大半は短調で表現されていますが曲の終盤、ずっと短調でラ♭がなっていた中で一瞬その音が止み長調に変わる部分があります。ここは苦しみの中にいた彼が、ふっと心を神様に向け祈った瞬間を表現しています。神に語りかけ祈ったことで悲しみや悩み全てから解放されたことが表わされているのです。結核で若くして亡くなった彼は最期にこの言葉を残しています。「僕は神と人とを愛している。死ぬのはとても幸せだ。泣かないでくれ、姉さん。泣かないでくれ、友よ。僕は幸せだ。死んでいくみたいだ。僕のために祈ってくれ。」と。彼は神に祈ることで、すべての重荷から解放されたのです。

私たちは生きるなかで楽しいと感じるとき、辛いと感じるときがあります。そんな私たちに神様はそれぞれに計画を持たせてくださっています。神様は私たちの髪の毛の数さえも知っておられるお方です。神様は私たちがどのように歩んだらよいか道を示してくださっています。しかし、私たちは困難な状況にあるとき、感情によりそれを見失ってしまいがちです。では、見失わないためにはどうしたらよいでしょうか。それはダビデの行動から知ることができます。詩編には嬉しいとき、辛いとき、どのような状況にあっても、いつも神様に祈り、賛美するダビデの姿があります。詩編32編、51編には大きな罪を犯したダビデが神の前で静まり、悔い改めている姿があります。私たちもまた、ダビデがしたようにできるのです。

また、イエス様の姿からも多くを受け取ることができます。イエス様が十字架に向かわれる前にゲッセマネの園で父に祈ったのは、自身のためではなく私たちが罪や苦しみ、葛藤、様々な重荷から解放するためでした。私たちの重荷を負うためにイエス様は十字架にかかってくださったのです。ですから、もしあなたがまだ一人で戦い、重荷を負おうとしているのなら、すべてを引き受けてくださったイエス様の十字架は無意味なものになります。『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいにやすらぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。』(マタイ11:28-30)』と主は言われています。もう一人で負わなくてもいいのです。心の内にある様々な思いや今までに犯してしまった罪、全てを神様の前にさらけ出しましょう。全てを委ね、祈りましょう。神様はあなたを通して光を放ちたいと願っています。あなたの姿をみてあなたの周りの人々が変わることを願っています。今、神様の前に自分の重荷を下ろし、キリストと共に歩いていきましょう。(要約者：金光 瞳)